

展着剤の使用方法

1. 展着剤の使用目的

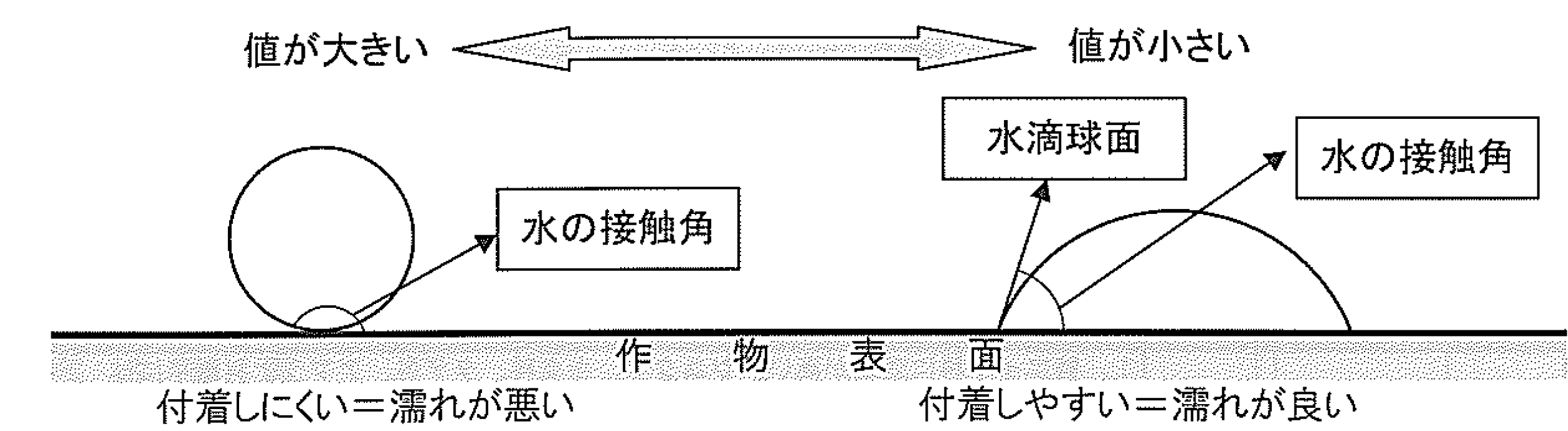
作物・病原菌・害虫などの表面は「ろう物質」「キチン質」「細毛」などに覆われているため、反発して付着しづらく薬剤効果が得られないことがあります。

展着剤の主成分である「界面活性剤」を使用する事により、表面張力を低下させて農薬の散布薬液を均一に付着させる目的として使用します。

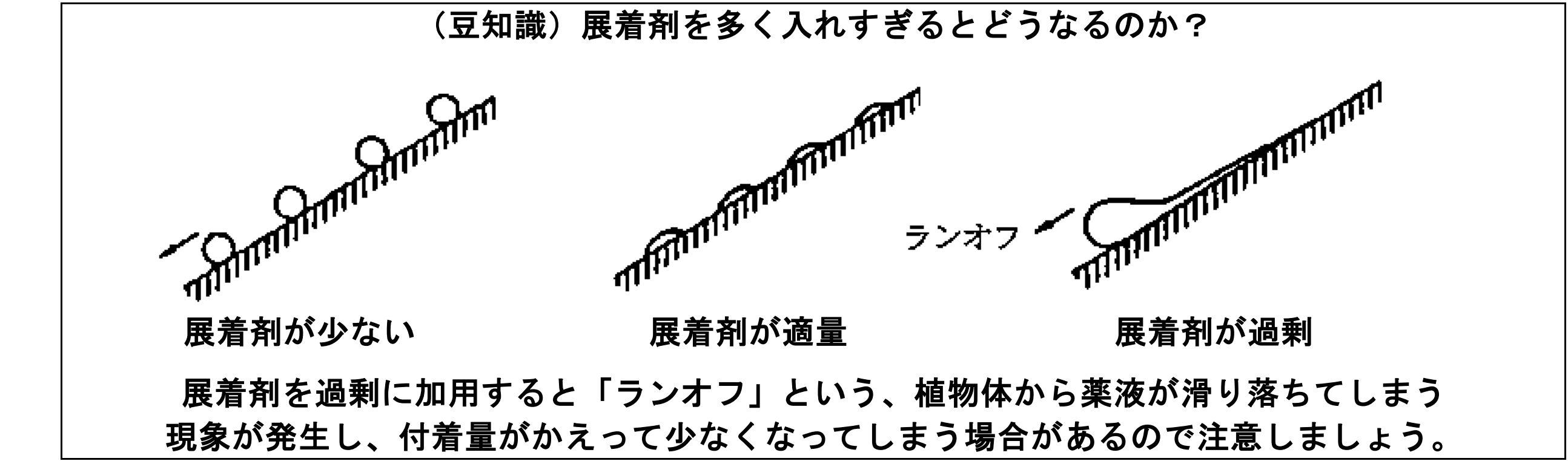
2. 各作物に対する濡れ程度（湿展性）

濡れの程度	水の接触角（度）	作物例
悪い	130度以上	水稻、小麦、大麦、大豆、てんさい、ねぎ、たまねぎ、アスパラガス、キャベツ
中程度	100～120度	ばれいしょ、いちご、メロン、かぼちゃ、なす、トマト、ぶどう
良い	90度	小豆、いんげんまめ、きゅうり、とうもろこし、なし、りんご、もも

『水の接触角(度)』



※水の接触角とは、水滴を作物表面に垂らした場合にできる水滴球面と作物表面がつくる角度のことです。



3. 展着剤の種類

(1) 一般的展着剤（スプレッター）

展着剤の中で最も種類が多く、散布液の表面張力を下げることによって湿展性を改善し、付着性を良くして防除効果を高める。しかし、展着剤の加用量が多すぎるとかえって防除効果を低下させるので注意する。

(2) 機能性展着剤（アジュバンド）

作物、害虫、病原菌などの「表面を濡らす」、「内部へ染み込ませる」という両方を合わせ持った機能を持つ。内部へ染み込ませる機能を持っており、過剰な使用は薬害の要因となり得るので注意する。

(3) 固着性展着剤（ステッカー）

主成分にパラフィンや樹脂酸エステルが用いられ、作物などに付着した薬液を固定させ、薬剤の効果を高める。